

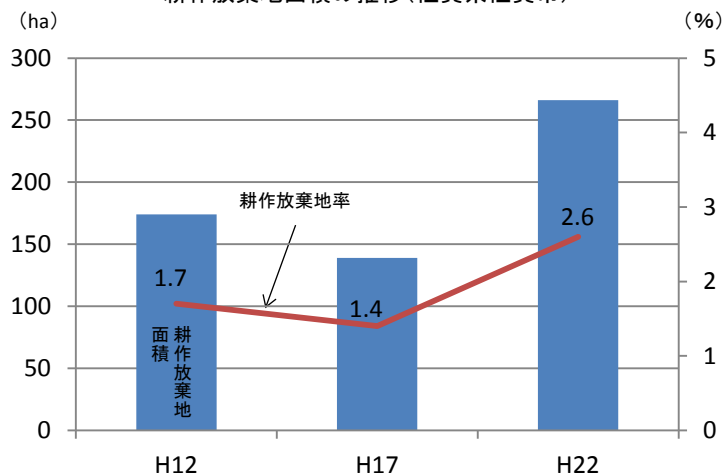
実証ほ場による取組事例 [佐賀県佐賀市]

1. 地域農業の状況

- 佐賀市は、佐賀県の南東部に位置し、市域は南北に長く、南側は有明海に面し、北東部は背振山地を境に福岡県福岡市・糸島市に接している。
- 佐賀市の農業は、米麦を主体とし、北部中山間地域においては、夏期の冷涼な気候を活かしたレタス、ホウレンソウなどの高原野菜や花き、果樹の生産が盛んであり、南部平坦地域においては、温暖な気候と整備されたほ場、暗きょ排水事業により乾田化されたほ場に、麦や大豆の生産及び施設園芸が盛んである。
- 農地面積は10,821haであり、耕作放棄地面積は266haとなっている。（平成22年農林業センサス）



耕作放棄地面積の推移（佐賀県佐賀市）



資料：農林業センサス（農林水産省）

2. 耕作放棄地再生利用の取組

取組主体	佐賀市地域耕作放棄地対策協議会	地区名	川上（かわかみ）地区
再生面積	1.09ha（うちほ場面積0.42ha）	取組年次	平成21年度～平成25年度
作付作物	温州みかん（青島）	販路	JAを経由して販売

■鳥獣被害等による耕作放棄地を優良農地へ再生

- 佐賀市大和町川上地区は、みかんを主とした果樹地帯であるが、近年は農家の高齢化や後継者不足等により耕作放棄地が増加している。
- また、当該地区は、イノシシなどによる農作物被害が顕著であり、耕作放棄地自体が、これらの棲み処となっている。
- そこで、佐賀市地域耕作放棄地対策協議会が事業主体となり、地域の担い手農家と共に、国の交付金を活用した再生事業を実施し、周辺農地で一体的に栽培されている「温州みかん」の栽培管理方法等について実証実験を行った。
- 実証実験の内容としては、再生したほ場を6区画に分け、スプリンクラーによる灌水労力の軽減や、抑草マルチによる早期成園化及び草刈労力の軽減などの比較検証を行った。
- 今後は、検証結果を地元若手農業者や担い手、認定農業者を中心にPRすることで、農業経営者の意欲の向上等を図っていくこととしている。



《再生前》



《再生された農地》

活用した支援策：

H21～25 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金（国）（再生作業・経営展開）